



下高屋からドローンで撮影。正面奥に蔵持山、右は帝釈山。万葉の昔、さらに大昔から、人は永遠の時間の一瞬をこの里で暮らしてきた。

仏法領

ぶつぽうりょう

第83号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町

犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

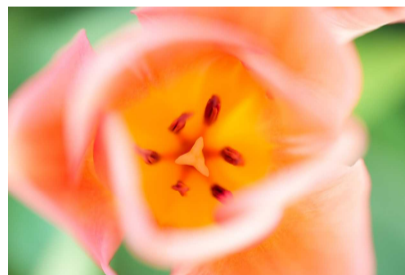
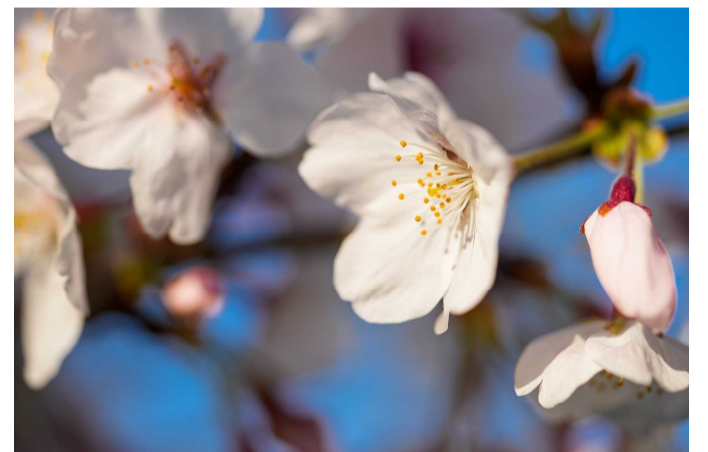
nenshinji.org

メールアドレス

nenshin@pony.ocn.ne.jp



大正14年の上高屋小学校卒業生



ハルウララ
鶯のさえずり
暖かい風を感じながら、桜を楽しむ

今年は、良い年にしよう
去年は会えなかった人に、会いに行こう
元気にしてるといいなあ

皆さんの春の訪れは、どうですか？

(写真・文 大迫光造)

「懐かしいもの 大切なものってなんだろう？」

整理するために捨てなくてはならないモノと捨てることのできないモノがあります。私もやがて身の回りの品物だけでなく、大切にしているモノやコトともお別れしなければなりません。最後は自分自身とも。

人との距離が遠くなりつつある現代、コロナウイルスが距離を広げるのにさらに拍車をかけています。何を大切にするのか吟味しなければなりません。



お寺にはその人のことを想うと捨てることが出来ないモノが結構あり、それは多かれ少なかれ誰にもあるでしょう。まだ現役で、使い込まれている懐かしい香合（お香入れ）が手元にあります。村の上で木工を趣味にしていた小田主税ちからさんがくださった香合とお盆です。見栄えの良い工業製品の香合もあるけれど、蓋受け部分にお香がたまって蓋を開けた途端にお香がこぼれて具合が悪い。それで手作りで上の蓋が下とぴったり合って、お香が溝にたまらない小田さんの香合を愛用しています。木の温もりや手作りの質感が優しい気持ちにしてくれます。

ブツダは臨終に際して弟子が嘆き悲しむのをいませめた。全ては過ぎ去る(諸行無常)。嘆き悲しむことなく修行に励みなさい。真実に目覚めよと智慧をこそ大事にされたのでしよう。私の日々は多くのご縁に支えられているのに、自分の手柄にしてしまう傲慢さがお陰さまの道理を見えなくするようになるのです

